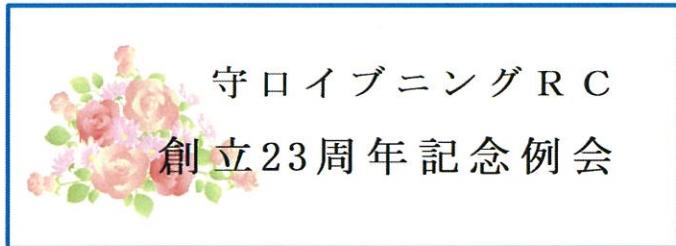




世界に希望を生み出そう

- ◆国際ロータリー会長
ゴードン R. マッキナリー
- ◆第2660地区ガバナー 延原 健二
- ◆クラブテーマ「会員増強」

本日例会 2023年 11月 9日(木)第949回



前回例会 2023年11月 2日(木)第948回

1. 開会 会長
2. 国歌斉唱
3. ロータリーソング「奉仕の理想」
4. 四つのテスト唱和
5. 誕生日のお祝い 小林会員 柳本会員
6. ニコニコ箱報告(小計9,000円 累計133,000円)
樋上会員 本日卓話です。よろしく！
小林会員 健康第一に過ごします。
柳本会員 何回目の誕生日なのかは忘れてしまいました。
7. 会食
8. 幹事報告
 - 定例理事会報告
 1. 選考委員選出の件 (承認)
 2. 次年度地区委員出向の件 (承認)
 3. 電子投票の件 (承認)
 4. クリスマス家族例会の件 (承認)
 5. 創立23周年記念例会の件 (承認)
 - 回覧2件
 - ①大阪ユニバーサルシティRC主催
「ウクライナ人道支援チャリティコンペ」
参加回覧
 - ②吉岡会員によるインフルエンザワクチン
接種希望回覧
 - 11/9創立23周年記念例会開催連絡
 - 会合開催連絡
11/3～11/5秋のライラセミナー開催
北山会員(地区ライラ委員)全日出席
9. 出席報告(会員総数19名・休会1名)
11月 2日 出席11名 欠席8名 出席率61.11%
メイクアップ報告
9月21日 出席14名 欠席5名 出席率77.78%
(メイクアップ者 4名)
10. 会長の時間

11. 本日のプログラム

- 担当：国際奉仕委員会
卓話：「ポリオについて」
卓話者：樋上ロータリー財団委員長

12. 閉会 会長

- 例会前の会合 定例理事会

会長の時間

ロータリー米山記念

奨学事業とは

事業の使命としては、将来、日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することです。これはロータリーの目指す平和と国際理解の推進のそのものです。この事業は日本のロータリー全地区による国際奉仕事業です。日本で学ぶ外国人留学生に奨学金を支給し、支援することにより日本と世界の懸け橋になる人材を育てます。なぜ外国人留学生を支援するのか？この事業は1952年東京RCが発表した「米山基金」に始まります。日本のロータリーの創始者である故・米山梅吉氏の生前の功績を讃え、後世まで残るような有益な事業を行いたい。東京RCが設立したのは、海外から優秀な学生を日本に招き勉学を支援する奨学金事業でした。その背景には、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために平和日本を世界に伝え、国際親善と世界平和に寄与したいという、戦後のロータリアンたちの強い願いがありました。米山記念奨学金の特長としては交流を重視しています。奨学生は毎月1回以上、世話クラブの例会に出席し、会員との交流によって日本の社会を知り、ロータリーの奉仕の精神について学びます。奨学期間終了後は米山学友会に入会したり、「ロータリー学友」として国際ロータリーのコミュニティに参加することができます。

次回例会 2023年11月16日(木)第950回

卓話担当：社会奉仕委員会 金崎会員

◆11月の休会日◆11/23祝日・11/30(細則)

卓話 「ポリオについて」

樋上 重夫 会員

寄付一人あたり50ドル等の目標をかかげ、その達成にメンバーのご協力をお願いしていますが、本日はポリオについて理解を深めるべく卓話のテーマに取り上げました。ポリオの根絶は「ロータリーの最優先事項」であり、「世界中の子供たちへのロータリーの約束」です。

2023年2月28日現在のポリオ症例数

◎野生株におけるポリオ症例数

	2023	2022	2021	2020	2019	2018	
常在国	パキスタン	0	20	1	84	147	12
	アフガニスタン	0	2	4	56	29	21
非常在国	モザンビーク	0	8	0	0	0	0
	マラウイ	0	0	1	0	0	0
世界合計	0	30	6	140	176	33	

◎ワクチン由来ポリオ症例数

	2023	2022	2021	2020	2019
常在国	0	0	51	443	22
非常在国	4	581	647	675	356
世界合計	4	581	698	1118	378

ポリオが完全に根絶されるまで、すべての国は輸入の危険にさらされたままであり、すべての子ども達をポリオから守るために高い予防接種を維持しなければなりません。

○ポリオ（急性灰白髄炎）とは？

ウィルス感染によって発症する病気で、その感染性は高く、特に感染しやすいのは5歳以下の子供である為「小児まひ」とも呼ばれています。汚染された水、食べ物、排泄物を介して人から人へ感染し、神経系を侵すことで身体のみひを引き起こし、死に至らしめることもあります。治療法はありませんが、ワクチンで予防が可能で、他の多くの疾病とは異なり、根絶が可能です。

日本では1960年(昭和35年)に大流行、1980年を最後に症例はありませんが、海外からポリオウィルスが入る可能性がある為、いまだに乳児へのポリオ予防接種が行われています。

○ポリオ・プラスの『プラス』とは？

子供が感染しやすく致死率が高い感染症（はしか・ジフテリア・結核・百日咳・破傷風）にポリオが加わった（プラスされた）。

⇒ポリオ根絶の取り組みにより築かれたインフラやファンディングとアドボガシーのノウハウ（遺産）を他の疾病対策に生かしていくことも意味する。

⇒新型コロナウイルスへの対応と拡大抑止にも活用

また、「プラス」にはすべての感染症根絶の願いが込められています。

○ポリオを根絶する理由

ポリオ根絶はロータリーの最優先事項です。

ポリオを根絶する5つの理由

1. 人々の生活の向上
2. 未来への投資
3. 子共の健康を向上
4. 医療費の削減
5. 歴史を作る

1. 根絶活動のおかげで、身体まひにならずにすんだ人の数は1900万人、命を落とすことのなかった人の数は150万人に上ります。
2. ポリオが根絶されなければ、今後10年間に、毎年20万人の子どもが身体まひになる可能性があります。ポリオの根絶は、すべての子どものためにより健康な世界をつくることです。
3. ポリオ根絶のサーベイランス（監視）や予防接種活動では、ビタミン欠乏やはしかといったほかの健康問題の検査も行われるため、いち早く対応できます。
4. 世界的なポリオ根絶活動により、1988年以来すでに、270億ドルの医療費が節約されています。2050年までに、さらに140億ドルが節約されると予測されています。
5. ポリオが世界から根絶されれば、天然痘に続いて2番目に根絶される疾病となり、歴史上で最も偉大な公共保健での達成の一つとなります。

○ポリオ根絶のためにやるべきこと

1. 認識の向上
2. 情報を発信
3. イベントを実施
4. 政府へのはたらきかけ
5. 寄付

1. 行動し、推進力となってクラブと地域社会に参加を呼びかけてください。
2. ソーシャルメディアで情報を発信し、世界が協力することの大切さを伝えてください。
3. 世界ポリオデー(10/24)や可能な時に、イベントや募金を行ってください。
4. ポリオ根絶への支援を行政にはたらきかけてください。
5. ポリオ根絶の実現には資金が必要です。
 - ・毎年4億人以上の子どもへのポリオ予防接種
 - ・ウィルスを検知するためのサーベイランス（監視）の向上
 - ・15万人以上の保健従事者の雇用
 - ・交通手段、広報活動費用、研修 etc.

※ロータリーがポリオ根絶のために集める寄付に対し、ビル&メリンダ・ゲイツ財団が2倍額を上乗せします（毎年5000万ドルまで）

最後に「ポリオに\$50の寄付をお願いします！」
ポリオ寄付「ゼロ」クラブを「ゼロ」に！

(2023~24年度地区研修・協議会

「ロータリー財団部門」配布資料より)